日比谷公園ガーデニングショー

日比谷公園ガーデニングショーは、2003 年に日比谷公園開園 100 年の秋の目玉のイベントとして始まり、2017 年に 15 回目を迎えるまでになります。

日比谷公園ガーデニングショーは、公共の造園を主体として活動しているグループと、ガーデニングなど草花の特色を生かした民間主体の活動をしているグループなど、通常交流のない分野の民間団体が実行委員会を組織して、共同して企画･運営･財務管理などを行っている手作りのイベントです。

実行委員会は、14 年にわたる開催について高い評価を受けて、平成 28 年度日本造園学会賞（事業・マネジメント部門）を受賞しました。

CLA 関東支部は最初の頃、日比谷公園ガーデニングショーの開催期間中に、次の 2 種類の活動を行っていました。

日比谷公園ガイドツアー

自然探索ツアー

日比谷公園ガイドツアー：日比谷公園の園内に沢山埋もれている文化や歴史を案内するツアーで、このツアーは東京都の OB の人たちの協力を得て実施しました。

自然探索ツアー：日比谷松本楼本店の隣に植栽されている“首賭けイチョウ”や、日本に最初に導入されたスズカケなど、公園中に沢山植栽されている珍しい樹木を案内するツアーで、こちらは関東支部の仲間が協力して実施しました。

自然探索ツアーは、樹木医の人たちに受け継がれ現在も実施されていますが、公園ガイドツアーは行われていません。

日比谷公園ガーデニングショーの構成は、ガーデン部門・ライフスタイルガーデン部門・ハンギングバスケット部門・コンテナガーデン部門・ミニガーデン部門のコンテストを中心として、子供たちによる花畑づくりや花と緑のフリーマーケットなどの様々なイベント、市民カレッジにおけるシンポジウム開催、小音楽堂でのランチタイムコンサート、花と緑の団体による出展などで構成されています。

丸の内・仲通りガーデニングショー

丸の内・仲通りガーデニングショーは、歩道の上にコンテストガーデンやハンギングガスケットなどを展示する、他のガーデニングショーでは見ないようなものでした。

丸ビルの横に、日本を代表するガーデンデザイナーの作品をモデルガーデンとして展示し、東京駅から有楽町までの歩道上にその空間にふさわしいコンテストガーデンを展示する形式をとりました。

こちらのガーデニングショーは、最初のうちはなかなか作品が集まらなくて苦労しましたが、回を重ねるごとに応募が増え作品のレベルも高くなり、ここを契機に活躍するようになったガーデナーが沢山います。

CLA は、展示ガーデンのガイドを実施しました。このツアーも回を重ねるごとに人気となり毎年リピーターも多く見るようになりました。

このガーデニングショーは、三菱地所がスポンサーとなって実施していましたが、残念ながら現在は休止しています。

ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部　支部長　新井　豊

いきものコラム その 21　日比谷公園「**首賭けイチョウ**」

日比谷公園のほぼ中央に「首賭けイチョウ」と呼ばれるイチョウの大木があります。幹周 6.5m、樹高 20m に達する非常に巨大なイチョウで、日比谷公園のシンボル的な存在です。樹齢は不明ですが、一説では 350 年以上とされているようです。名前だけ聞くと「首掛け」を連想し、何とも物騒な由来があるように思われますが、そのようなことはありません。もともとは日比谷交差点の近くにあったものが道路拡張のために伐採されそうになったところを、日比谷公園の設計者である本多静六博士が、自分の首を賭けてでも日比谷公園内に移植させると宣言したことから、こう呼ばれるようになったとのことです。

イチョウという樹木は決して移植が難しい種類ではありませんが、どのような樹種であっても、これだけ巨大になると移植には大変な困難が伴ったはずです。明治 34 年のことですから、現代のような高性能の重機などもまだなかったと思われます。事前の剪定や根回しを周到に行い、十分な時間をかけて養生してもなお発生する様々な困難の連続を、知恵と技術と執念とで乗り越えたことでしょう。そうした苦労の末に眺めるイチョウの美しい黄葉は、林学者冥利に尽きる素晴らしい景色だったに違いありません。

これまでの度重なる戦火や災害、事件に耐えてきたこの大イチョウは、これからも日比谷公園の中央で、訪れる人々や生きものたちを見守ってくれることでしょう。

株式会社プレック研究所　本池祐貴

気になるお店

今回はテーマにちなみ、同公園内にある「日比谷松本楼本店」をご紹介します。

日比谷松本楼本店

松本楼は日本初の洋式公園として誕生した日比谷公園の開園と共に始まりました。おしゃれなお店として評判を呼び、夏目漱石をはじめとする多くの文人たちの憩いの場となり、また、日露戦争大祝捷会が行われるなど政治の主要な舞台となるなど激動の近代史の発祥の地ともなりました。このような時代背景を持つ松本楼も平成 15 年に 100 周年を迎えました。公園の樹木も大きく成長し、お店を見守るように林立しているこの木々の中にある松本楼はまさに森のレストラン。この都会のオアシスの中でのひとときを楽しまれてはいかがでしょうか。食事のメニューは複数ございますが、右記におすすめするメニューをご紹介します。

①選べるビッグプレート
オムレツライスのソースと、ハンバーグ、海老フライ、カニクリームコロッケからお好きな組み合わせが選べるプレート料理
¥1,650（税別）

②オムレツライス 2 色のソース
人気のオムレツライスを 2 種類のお好きなソースを選べる一品
¥1,350（税別）

③ハンバーグステーキ 森のレストラン風
調理場で手ごねしたハンバーグに、きのこいっぱいのデミグラスソースで仕上げた一皿
¥1,350（税別）

住所 ● 東京都千代田区日比谷公園 1-2
電話 ● 03-3503-1451
営業時間 ● 11:00~21:00（20:30 ラストオーダー）
交通 ● 東京メトロ日比谷線･丸ノ内線「霞ヶ関駅」B2/B1A/B3A 出口
東京メトロ千代田線・日比谷線・三田線「日比谷駅」A14 出口
JR 山手線・京浜東北線「有楽町駅」日比谷口
ホームページ ● http://www.matsumotoro.co.jp

編集後記

「みどりの手帖」21 号はいかがでしたでしょうか。季節の移り変わりは早いもので、涼しくて雨続きだった夏も終わり、秋を迎えました。

特集記事で取り上げた日比谷公園では様々な形で公園の活用がされており、この秋にガーデニングショウやコーヒーのイベントなど、各種イベントが開催されますので、気持ちのよいこの季節にぜひ訪れてみてください。また、興味深いお話を伺い、写真等を提供いただいた兒玉賢治サービスセンター長に厚く御礼申し上げます。（きくや）

みどりの手帖　Vol. 21　2017 年 9 月
発行者　(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長　新井 豊
〒 103-0004　東京都中央区東日本橋 3－3－7　近江会館ビル 8 階
TEL 03-3662-8266　FAX 03-3662-8268
企画・編集　和田 淳、加藤 直人、石垣 良弘、泉地 善雄、菊谷 隆、高橋 彩
※転載・転用を禁じます。[表紙写真]／日比谷公園 雲形池　[タイトル写真]／日比谷公園 首賭けイチョウ

CLA
Consultants of Landscape Architecture in Japan
(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部
Consultants of Landscape Architecture in Japan

CLA 関東支部情報誌
Vol.21 2017.9

みどりの手帖

特集
ランドスケープのしごと
「公園の活用　日比谷公園大解剖!!」
兒玉 賢治さん　日比谷公園サービスセンター長

CLA関東支部と日比谷ガーデニングショー

みなさんご存じないかもしれませんが、都市公園法の一部の改正が今年の 6 月中旬に施行され、公園をもっといっぱい活用しようという方針が打ち出されました。
日本初の近代的な洋風公園で、日本を代表する日比谷公園が、開園当初（明治 36 年 1903 年）の 114 年前から実に様々な活用がされている公園だということをご存知でしょうか。
現在、日比谷公園を管理・運営している（公財）東京都公園協会の兒玉サービスセンター長にさまざまな側面からのお話を伺って、知っているようで知らない日比谷公園の魅力をお伝えしようと思います。

特　　集

ランドスケープのしごと: 公園の活用　日比谷公園大解剖!!

兒玉 賢治　Kenji Kodama　日比谷公園サービスセンター長

兒玉 賢治さん
（公財）東京都公園協会に所属。これまで、指定管理者として都立公園の管理に広く携わり、主な職務経歴は、駒沢オリンピック公園、葛西臨海公園、戸山公園など。4 月から日比谷公園に配属となり、歴史的・文化的ポテンシャルを活かしつつ、新たな利用ニーズに応える管理に取り組んでいる。趣味は旅行、散歩。（公園管理運営士、防災士、自然観察指導員）

日比谷公園は昔何だったの？

昔は日比谷入江と呼ばれる海でした。「ひびや」という名前は、水中に竹や小枝などを立てて、のりやカキを付着させていた養殖の道具「ひび」からきています。江戸時代の初めに埋立てが行われ、幕末まで大名屋敷が建ちならんでいました。有楽町門側にある心字池には、江戸城内濠の石垣（日比谷見附）が残っており、その面影をみることができます。明治初期は日比谷練兵場として使われていましたが、明治 21 年の市区改正設計（現在の都市計画）で、首都東京の中心地にふさわしい近代的な西洋式の公園として日比谷公園をつくることが決まりました。

日比谷公園は誰の設計？

まだ誰も「西洋式公園」がどんなものかよく知らない時代ですから、何案もの設計案が検討されましたが、なかなか決まりませんでした。その中には東京駅の設計で有名な辰野金吾の案もありました。最終的には、ドイツ留学から帰ったばかりの本多静六が作成した、既往の案の共通点やいいところを取り入れつつ、洋の中に和の要素を巧みに織り交ぜた「洋風」の公園案に決定しました。図面を見比べてみると今でも当時の園路線形が活きているのがわかります。

公園では「洋風」のシンボルとして「3 つの洋」を提供し人々を惹きつけました。ひとつめは「洋花」で、パンジーやチューリップ、バラなど当時は珍しい洋花を芝生とともに鑑賞する第一花壇がつくられました。今でも同じ場にその形を留めています。

ふたつめは「洋食」で、園内のレストランでの食事は人々の憧れでした。みっつめは「洋楽」で、小音楽堂での軍楽隊の洋楽演奏は人気を博しました。今ではどれも当たり前のことばかりですが、最初に一般の人々にこうしたモダンな楽しみを提供したのは日比谷公園だったのです。

日比谷公園の波乱万丈の歴史

開園した後は戦争の祝賀会や伊藤博文の国葬など国家行事にも多く使用されました。大正 12 年の関東大震災の際は多くの人々が公園に避難し、被災者用の仮設住宅も建設されましたが、期間を 1 年に限定して公園に戻しています。これには、公園の効用に真摯に向き合った管理者の並々ならぬ覚悟と気概を感じます。

第二次世界大戦中は、食糧難で草地や空地を開墾してイモなどの野菜が栽培されました。戦後は GHQ に接収され保養施設として利用されました。当時は雲形池の水を抜いてダンス場として利用していたそうです。

その後は、デモや集会の場、音楽を楽しむ場、会社員などがランチタイムを過ごす場、カップルのデートスポット、ファミリーの憩いの場と、多様な世代の多様な利用を受け止め、時代の移り変わりとともに様々なニーズに応える舞台となってきました。

日比谷公園には何があるの？

旧公園管理事務所で結婚式

都心のオアシス　「心字池」

- ▶ 開園当初からある日比谷松本楼本店をはじめ飲食店や売店が数店舗あります。
- ▶ 日本初の野外音楽堂である小音楽堂、「野音」の名で親しまれている大音楽堂があります。どちらも現在 3 代目の建物です。
- ▶ ドイツ風バンガロー様式の旧公園管理事務所を活用した結婚式場など、結婚式ができるお店があります。
- ▶ 緑の専門図書館「みどりの図書館東京グリーンアーカイブス」、日比谷図書文化館、日比谷公会堂（改修工事のため閉鎖中）などの文化施設があります。
- ▶ 戦災復興のひとつとして、“海外のようなフラワーショップを”という要請で出店された日比谷花壇があります。
- ▶ 雲形池、心字池、大噴水、かもめ広場の噴水といろいろな水辺の風景があります。
- ▶ 開園当初は園路を馬車が走っていたので、人も馬も利用できる形の水飲みが見られます。

使いこなされる日比谷公園

日比谷公園は開園当初から、民間の力を活用していました。開園の翌年・翌々年に松本楼をはじめとする喫茶店が出店していますが、これは公入札で選び出店したものです。また、花壇展や野外彫刻展、最初の東京モーターショー（第 1 回目全日本自動車ショウ）など大きなイベントも開催されてきました。

現在、都立公園では公園の魅力を一層高めるため、日比谷・上野・代々木・駒沢・光が丘等の特定の公園における利用規制の緩和措置によって、多種多様なイベント楽しむことができます。

恒例のオクトーバーフェスでビール！

日比谷公園も恒例となっているオクトーバーフェストをはじめ、様々に活用されており、同日に複数のイベントが開催されることもめずらしくありません。

そんな中、私たち指定管理者は、本来の「公園らしさ」を重視したイベントに取組んでいます。

あかりテラス

▶ 芝生でカフェ［9/27（水）、10/4（水）、10/11（水）～ 13（金）開催］

普段は立ち入れない第二花壇の芝生を、期間限定で開放します。10/11 ～ 13 は、コーヒー専門店によるドリップとティスティング体験も実施します。

▶ アカリテラス［10/12（木）開催　※雨天の場合 10/13（金）］

毎年恒例となったキャンドルイベントです。今年は開園以来の姿を留める第一花壇で開催します。普段とは違う日比谷公園の夜の景色を楽しみながら、ゆっくりとした時間をすごせます。

▶ ガーデニングショウ［10/21（土）～ 10/29（日）開催］

日比谷公園の 100 年記念事業のひとつとしてスタートしたイベントです。日比谷公園から「花と緑・環境」のメッセージを広く発信し、都市における「花と緑のライフスタイル」を提案します。

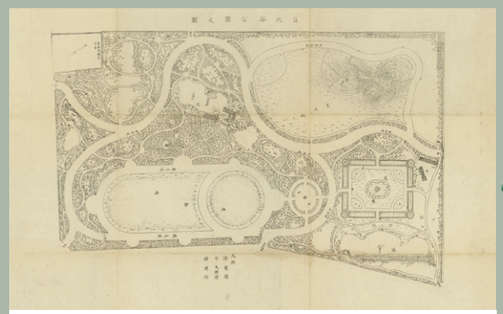
これからの日比谷公園

第二花壇と雲形池の間にあるツツジ山は、開園当時からツツジの名所としてとても人気がありました。このツツジは鉄砲組百人隊が栽培していた大久保ツツジを本多静六が購入して植栽したものでしたが、戦後のクルメツツジの補植などを経て、今に至っています。現在、専門家と一緒に、歴史的なツツジの同定を行いながら、生育環境の改善を図るなど、ツツジ山の復元に取り組んでいます。

これまでの歴史を知ると、日比谷公園には常にその時代の人の営みとともにあり続けたという、親近感が湧いてきます。「日本初」といった歴史や、東京の中心といった立地から醸し出す格式とは裏腹に、時代のニーズや衝動に適応し、翻弄されてきた、とても人間くさい公園だと感じるのです。

ただ眺めるという単なる鑑賞対象ではなく、散歩や休息、遊戯や運動など利用そのものを重視する使われ方は、開園当初から何ら変わっていません。日比谷公園こそは、「都市公園」として新たに誕生し、「都市公園」そのものを具現化し続けてきた公園だと思います。日比谷公園はゴミが少なく、ルールを破る人はほとんどいません。利用される方々が公園にある種の愛着や敬意をもっているあらわれではないでしょうか。

日比谷公園は今後もこれまで以上に、時代に合わせた柔軟な利用に対応していくことと思います。2020 年のオリンピックでは、パブリックビューイングの会場となる予定です。どんな舞台となるか、楽しみです。


本多静六の案　資料提供：（公財）東京都公園協会

現在の日比谷公園平面図　資料提供：（公財）東京都公園協会

日比谷公園クイズ

君は何問答えられるかな。ヒントはこのパンフレット内にあるからよく読んでみてね！　全問正解者には名誉の拍手を贈呈します。
（答えは右下、ひっくりかえしてみてね！）

① 日比谷公園の開園は何年？
② 日比谷公園のほぼ真ん中にある○○イチョウとは？
③ 日比谷公園の名前の由来のひびって何の道具？
④ 戦時中公園内で作られた野菜は何？
⑤ 日比谷公園の 3 つの「洋」とは何？

出典：日比谷公園歴史&魅力探見ガイド ¥310（都公園協会）

①明治36年（1903年）②首脳ｲﾁｺﾞﾂﾂｼﾞのﾋﾂｶﾞﾁの養殖④ﾒﾁｷ⑤洋花・洋食・洋楽